

事業名

東日本大震災避難者転居支援事業

評価項目

No	項目	記入欄 内容が分かるように、 <u>200字以上～300字以内</u> で簡潔にまとめて記載してください。	自己採点
1	成果目標	<p>6月15日から30日までの16日間にわたって避難所(旧グランドプリンスホテル赤坂)に相談窓口を設置し、避難者から計110件の相談を受けた。その中で、避難者の抱える避難所からの転居作業及び転居先の区市町村での地域生活についての不安を聞き取ることができ、その解決のための情報提供、関係機関・団体へのつなぎを行うことで、その後の支援の糸口を持つことができた。</p> <p>また、避難所からの退去期限である6月末日までに、339部屋すべての入居者の転居を終えることができた。</p>	4
2	市民性	<p>避難所では相談ブースが多数設置され、分野別、テーマ別の相談が行われたが、多くはNPO法人等の市民活動団体によるものであった。本事業では、必要に応じてそうした市民活動団体と連携しながら避難者の抱える課題の解決につなげる取組みを行うことができた。</p> <p>また、課題を抱える避難者自身からは、市民団体が相談に対応してくれたことに、身近な存在と感じ、安心することができたという声も寄せられた。</p>	3
3	波及効果	<p>相談窓口をとおして、他の市民活動団体が実施する相談窓口につながったこと、また、地域に存在する多様な社会資源を避難者に提供することで、転居後の資源活用のきっかけになったことや、そうした市民活動団体に参加していく機会になったと考えられる。</p> <p>また、区市町村社協にこうした課題を抱える避難者が存在することを事前に知らせることができたため、転居後の関係づくりが円滑に進んだと考えられる。</p>	4
4	継続性		
5	マルチステークホルダー・プロセス	<p>事業の実施にあたっては、都内への受入れ、避難者支援を行う東京都総務局、旧グランドプリンスホテル赤坂における避難所運営を行う都市整備局の各所管課と連携することができ、事業を円滑に実施できた。</p>	4

新しい公共の場づくりのためのモデル事業 自己評価シート

また、相談事業においては、避難所が設置された千代田区の社会福祉協議会をはじめ、避難者が転居する先の社会福祉協議会とも連携したため、地域ごとに異なる社会資源の情報提供を適切に行うことができた。

さらに、転居作業においては、専門事業者である赤帽物流が転居に関する相談、作業面を担い、期限内の転居を可能にすることができた。

合計点

15

ランク

A